

第Ⅱ相以降へ事業拡大図る

QMSをベースに人材育成

アイ・ディー・デーは、品質マネジメントシステム(QMS)をコアとした教育プログラムによる人材育成、受託案件大型化などCRO業務の拡大による人的リソース規模の拡大の両面をメインに掲げて事業を展開してきた。佐藤浩二社長は、今後も質向上と規模拡大を継続しつつ、新たなビジネスへのチャレンジも進めていることを明らかにした。質向上、規模拡大に加え、新事業の展開という3本柱で邁進するアイ・ディー・デーの最近の動きを、佐藤氏と、人材育成を担ってきた取締役クリニカル・コンプライアンス室長の富澤弘雄氏に聞いた。

アイ・ディー・デー

2012年に北里大 ディー・デーは、開発学から独立したアイ・コンサルティング、モニ

タリング、データマネジメント、統計解析等CRO業務を展開している。当初、早期の第Ⅰ相試験などの受託が多かった

が、その後、患者を対象とした臨床試験にシフトして受託規模の大型化傾向を踏まえ、人材を増やす対策も進めている。受託増加による収益も順調に増えてきており、予約案件からも同様の傾向が続くと見ている。

同社は、CRO業界の中心では大手と経験が浅いところをはなかなか手を出さないニッチ領域のプロジェクトを得意としてきたが、最近ではこの

強みが、より鮮明化してきた。

また、国内に拠点がな

い海外顧客の治験国内管理業務案件の受託は、以前に比べて数倍に膨れ

上がってきており、新たなビジネス構想も含め、グローバルのビジネス展開の進展にも意欲を示す。

積極的に進めている人材リソース強化に関しては、採用人員数は対年度比30%増だが、年齢構成が変化してリフレッシュ



佐藤氏

化されてきたという。今後の事業展開としては、患者を対象とした大規模な後発品(生物学)の同等性試験の実績を生かし、フェーズ2試験での実績を積極的に拡大させる考えとのこと。今後、さらに後期までの事業領域拡大に向け、体制的にも質的にも規模の拡大と効率化を目指す。

コロナ禍によって治験やCRO業界の動きが停滞していたが、ここで重視されるようになったのが「当社がQMSをベースとした人材育成を強みとしていきたい。人という足場が盤石な会社に育て上げ、今のような激しい変化にも揺らぐことのない、全員がエキスパートとなった本物のCROを目指したい。きちんとした知識を持った多くの若い人材が仕事を、活気溢れる会社の姿を思い描いている」と、人づくりに立脚した企業像を述べた。

佐藤氏は今後の会社の姿について、「業務の質を高めつつ企業規模の拡大も図っていく、結果として会社の収益伸長と社員のやりがいや生活水準向上につながるべく、好循環な会社になるよう取り組んでいきたい」と抱負を語り、続けて富澤氏が「そのためにも人づくりが大切であり、変化が激しい時代でも生き残れる会社になりたい」と改めて人材育成の重要性を強調した。



富澤氏

アイ・ディー・デーは、海外製薬企業と国内製薬企業のマッチングサービスという従来にはない新たなビジネス展開も構想中であり、佐藤氏は、海外製薬企業のパイプラインを国内企業導入に向けた取り組みに貢献したいと新たな挑戦に意欲を示した。